

平成12年度 複合的資源管理型漁業
促進対策事業報告書

平成13年3月

石川 県

目 次

石川県海域

1 全 体

- (1) 今年度当初事業目標の達成度 1
- (2) 事業結果の活動指針における位置付け 1
- (3) 次年度における活動指針等の見直しの必要性 1
- (4) 複合的資源管理型漁業促進委員会の開催及び活動指針の変更 1
- (5) ブロック情報交換連絡会議への参加 2

2 石川県地域

- (1) 今年度事業の内容と結果の概要 2
- (2) 個別事業の内容と結果 3
 - ア 試験調査 3
 - (ア) 底びき網漁業 3
 - (イ) 刺網漁業 8
 - イ 指導・普及啓発 12
 - ウ 情報収集・広報 13
 - エ 活動の推進 13
- (3) 当該地域の資源管理型漁業の進捗状況 15
- (4) 次年度事業における課題と方向 15

石川 県 海 域

1 全 体

(1) 今年度当初事業目標の達成度

底びき網漁業では、アカガレイとズワイガニの資源管理効果の把握、並びにホッコクアカエビの資源管理計画策定のための調査・研究を行った。輪島地区の刺網漁業では、ウスメバルの漁業実態、生態等を調べた。指導調整では、福井県と小型底びき網漁業の資源管理に関する協議を行った。普及啓蒙では、海面利用者講習会等で遊漁者に資源管理への理解を求めた。情報収集・広報及び活動推進では、各種会議への出席、県外視察等を行った。以上の取り組みについて、今年度当初の事業目標はほぼ達成された。

(2) 事業結果の活動指針における位置付け

資源管理に対する石川県の中長期的取り組み方針は、①沿岸では資源管理型漁業と栽培漁業、沖合では資源管理型漁業により漁獲の安定を図る、②平成14年度までは底びき網漁業と刺網漁業について、平成15年度からは定置網漁業を対象漁業として追加する、③流通対策では経済調査や専門家を招聘して問題解決に努める、④隣県との入会を考慮して共通の管理を推進する、⑤漁業者以外の遊漁者、消費者との情報交換・啓発活動を進める、となっている。底びき網の試験研究では、アカガレイとズワイガニの資源管理効果の実態把握、並びにホッコクアカエビの資源管理計画策定に向けた基礎資料の収集に関して成果が得られている。流通対策では、ホッコクアカエビの生産地と消費地の状況を調査し、販路拡大の可能性を調べた。隣県との関連では、底びき網漁業に関して福井および新潟県との協議を行った。遊漁者に対しては、海面利用者講習会等を通じて資源管理への理解を求めた。

(3) 次年度における活動指針等の見直しの必要性

漁獲安定と漁業経営の改善を図るため、次年度も現行の活動指針に従って事業を進める。

(4) 複合的資源管理型漁業促進委員会の開催及び活動指針の変更

ア 複合的資源管理型漁業促進委員会委員

区 分	所 属	役 職	氏 名
系統団体	県漁業協同組合連合会	会 長	上 濱 喜 男
"	県ごち網組合連合会	副 会 長	菊 義 一
"	県定置網漁業協同組合	代表監事	坂 本 康 正
"	県機船底曳網漁業協同組合	組 合 長	橋 本 志 朗
"	県漁業協同組合長協議会	会 長	濱 上 洋 一
漁業者代表	佐々波漁業協同組合	副組合長	勝 木 省 司
"	金沢市漁業協同組合	組 合 長	川 島 良 一
"	石川とぎ漁業協同組合	副組合長	木 村 豊 男
"	能都町漁業協同組合	元組合長	志 幸 松 栄
"	蛸島漁業協同組合	組 合 員	新 谷 栄 作
"	石川とぎ漁業協同組合	組 合 長	高 岩 権 治
"	七尾漁業協同組合	組 合 長	西 崎 繁 男
"	穴水町漁業協同組合	組 合 長	橋 本 安 幸
"	ななか漁業協同組合	理 事	廣 沢 実
"	輪島市漁業協同組合	組 合 員	水 谷 清

イ 委員会の内容

開催日時：平成 13 年 3 月 22 日(木) 13 時 30 分

開催場所：石川県庁新館 4 階第 10 会議室

資源管理型漁業（資源回復計画を含む）に関する取り組み状況について説明した。

(5) ブロック情報交換連絡会議への参加

第 1 回日本海西区資源管理型漁業ブロック情報交換連絡会議

日時・場所：平成 12 年 7 月 27 日(火) 13 時 30 分～16 時 30 分（松江市）

出席者：水産庁、日本海西区各府県の行政・研究担当者及び漁連担当者

議 題：(1)平成 12 年度事業計画について

(2)新たな資源管理制度における資源管理型漁業について

(3)その他

第 2 回日本海西区資源管理型漁業ブロック情報交換連絡会議

日時・場所：平成 12 年 2 月 22 日(木) 13 時 00 分～17 時 00 分（松江市）

出席者：水産庁、日本海西区各府県の行政・研究担当者及び漁連担当者

議 題：(1)平成 12 年度事業計画及び平成 13 年度計画について

(2)広域回遊魚種に関する資源管理効果等のレビューについて

(3)資源回復計画の対象魚種の整理について

2 石川県地域

(1) 今年度事業の内容と結果の概要

ア 試験調査

内 容	結 果
漁業種類：底びき網漁業 魚 種：アカガレイ ズワイガニ ホッコクアカエビ ① 試験船調査 ② 標本船調査 ③ 統計調査 ④ 生物調査	【アカガレイ】2001 年 1～2 月の漁獲の主体は 1997 年生まれの 4 歳群、次いで 1998 年生まれの 3 歳群であった。1999 年生まれの 2 歳群は漁獲尾数が少なく、今後は漁獲量が一時的に減少する可能性がある。 【ズワイガニ】2001 年 1～2 月における漁場全体の甲幅組成から、漁獲の主体は 1994 年生まれの 7 歳群であると判断された。 【ホッコクアカエビ】2000 年 7 月及び 2001 年 1～2 月の調査結果から、近年の漁獲は 1996 年生まれの卓越年級群によって支えられており、1997 年生まれ以降の年級群は少ないことから、今後は漁獲量の減少が懸念される。
漁業種類：刺網 魚 種：ウスメバル ① 漁獲統計調査 ② 標本船調査 ③ 市場調査 ④ 標識放流調査	【漁獲統計調査】平均単価は 5～6 月に低かった。 【標本船調査】ウスメバルの主要漁獲水深は 130～150m であり、季節による浅深移動が想定された。 【市場調査】漁獲物の尾又長組成から、5 月には満 2 歳と満 5 歳、6～7 月には満 4 歳の群が多く漁獲された。 【標識放流調査】釣獲した 77 尾のうち 36 尾を標識放流することができた。漁獲盛期の春に標識放流を行えば、より多数の個体が放流可能と判断された。

イ 指導・普及啓発

県内及び隣県の漁業者や遊漁者に対して資源管理への協力、調整、海面利用についての指導・普及啓発を図った。

ウ 情報収集・広報

水産物流通に関する問題点を明らかにして今後の改善策を検討するため、ホッコクアカエビの生産地の状況を調査した。

エ 活動推進

実践推進漁業者協議会及び漁業者検討会を開催して活動方針及び事業計画を協議し、アカガレイ及びズワイガニの資源管理計画の実践、並びにホッコクアカエビの調査結果や資源管理手法について検討した。販路開拓のためにホッコクアカエビの消費地の状況を調査した。

(2) 個別事業の内容と結果

ア 試験調査

(ア) 底びき網漁業

① アカガレイ

a 目的

アカガレイについての管理効果把握のためのデータ収集を行う。

b 調査の内容（アカガレイ、ズワイガニ、ホッコクアカエビ）

調査項目	調査の目的	調査手法等
試験船調査	水深別分布と漁具特性の把握	かけ廻し漁法で水深別分布を調べる。
標本船調査	漁場別・水深別漁獲量と漁獲努力量の把握	小型・沖合底びき網漁船計10隻に対して日誌を配布し、1隻当たりの魚種別漁獲箱数の記録を解析する。
統計調査	銘柄別水揚量の把握	主要港における銘柄別水揚箱数を調べる。
生物調査	成長・生残などの資源特性値の推定	調査船・漁船による漁獲物データや水揚統計資料・既存データを用いて解析する。
管理モデルの検討	資源管理による効果予測	資源管理モデルの改変及びシミュレーション。

c 結果および考察

水深別分布

2000年7月と2001年1～2月の金沢沖水深200～500mにおける水深別体長組成を図1に、標本船調査結果を図2に示した。7月には5回曳網で雄96尾、雌418尾の計514尾が、1～2月には5回曳網で雄40尾、雌114尾の計154尾が漁獲された。1曳網当たりの雌雄比率は7月には順に水深200mで94:6、同250mで68:32、同300mで55:45、同350mで95:5、同400mで90:10、同500mで100:0であった。また1～2月には順に水深200mで56:44、同250mで68:32、同300mで79:21、同350mで85:15、同400mで92:8、同500mで100:0であった。雌雄別に見ると7月は水深250～300mに雄が多く、1～2月には200～250mに多く分布している。標本船調査結果を見ると、水深別の漁獲量組成は11～3月中旬にかけ

ては水深220~330mで多く、9~10月には350~500mで多くなった。このことから、繁殖に伴う深
浅移動が顕著に伺えた。

資源動向

2000年7月と2001年1~2月における漁場全体の体長組成を図3に示した。なお、2001年1~2
月においては体長組成から年級群を記載した。2001年1~2月漁獲の主体は、1997年生まれの4歳
群でモードは170~180mmとなり、次いで1998年生まれの3歳群であり2000年生まれの1歳群も
比較的多くなっているが、1999年生まれの2歳群は漁獲尾数が少なくなっており、漁獲量が一時的
に減少する可能性が考えられる。

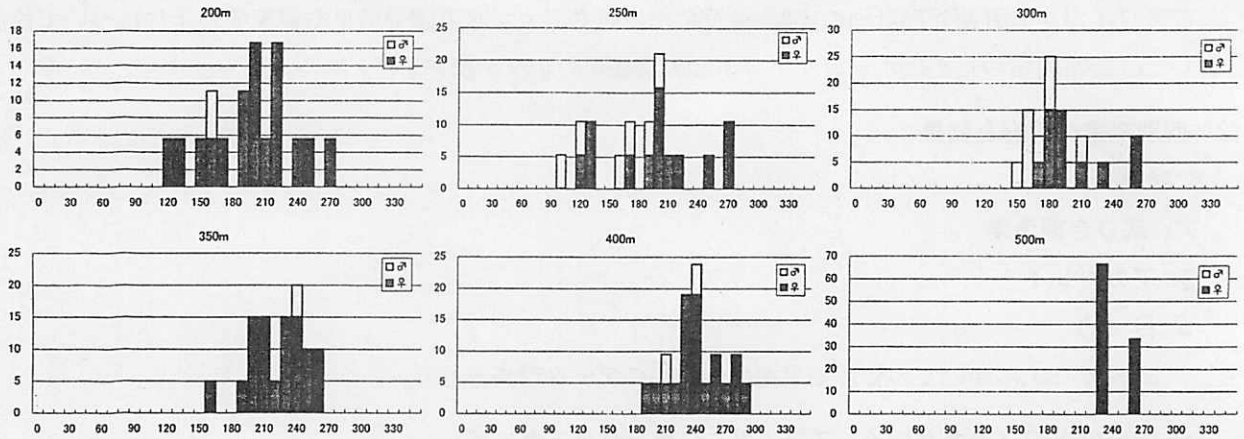


図 1 (1) アカガレイ水深別体長組成 (2000年7月)

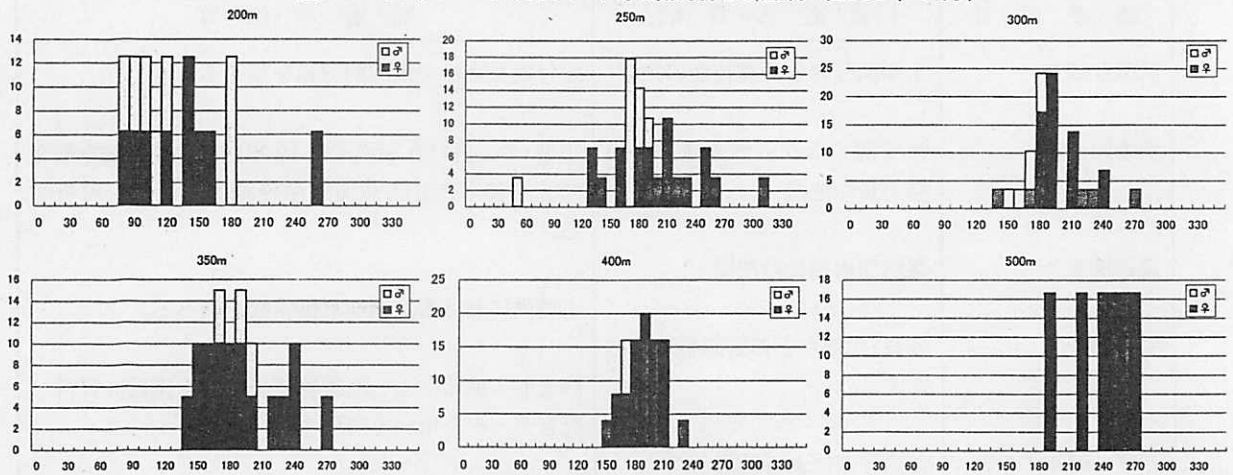


図 1 (2) アカガレイ水深別体長組成 (2001年1~2月)

※ 縦軸は頻度 (%) 横軸は体長 (mm)

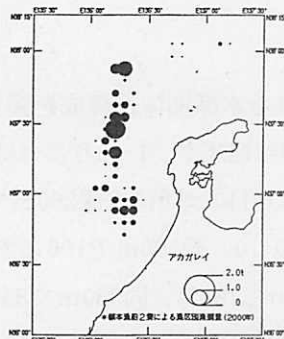


図2 標本船調査結果
(アカガレイの漁場)

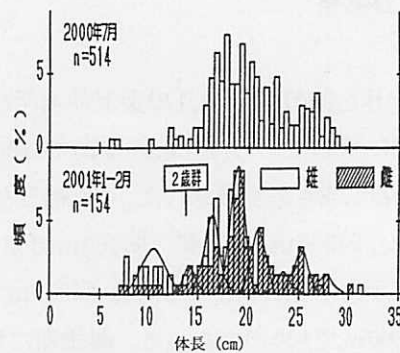


図3 漁場全体の体長組成 (1~2月)

② ズワイガニ

a 目的

ズワイガニについて資源管理効果把握のためのデータ収集を行う。

b 調査の内容

アカガレイに記載。

c 結果および考察

水深別分布

2001年1~2月の金沢沖水深200~500mにおける水深別甲幅組成を図4に、標本船調査結果を図5に示した。5回曳網で雄209尾、雌186尾が漁獲された。1曳網当たりの雄・雌の漁獲尾数は、それぞれ水深250mで83・89尾、同300mで21・31尾、同350mで42・34尾、同400mで26・18尾、同500mで37・14尾であった。標本船調査結果は、雄では水深250~350mで、雌では水深220~300mでの漁獲が多く見られた。

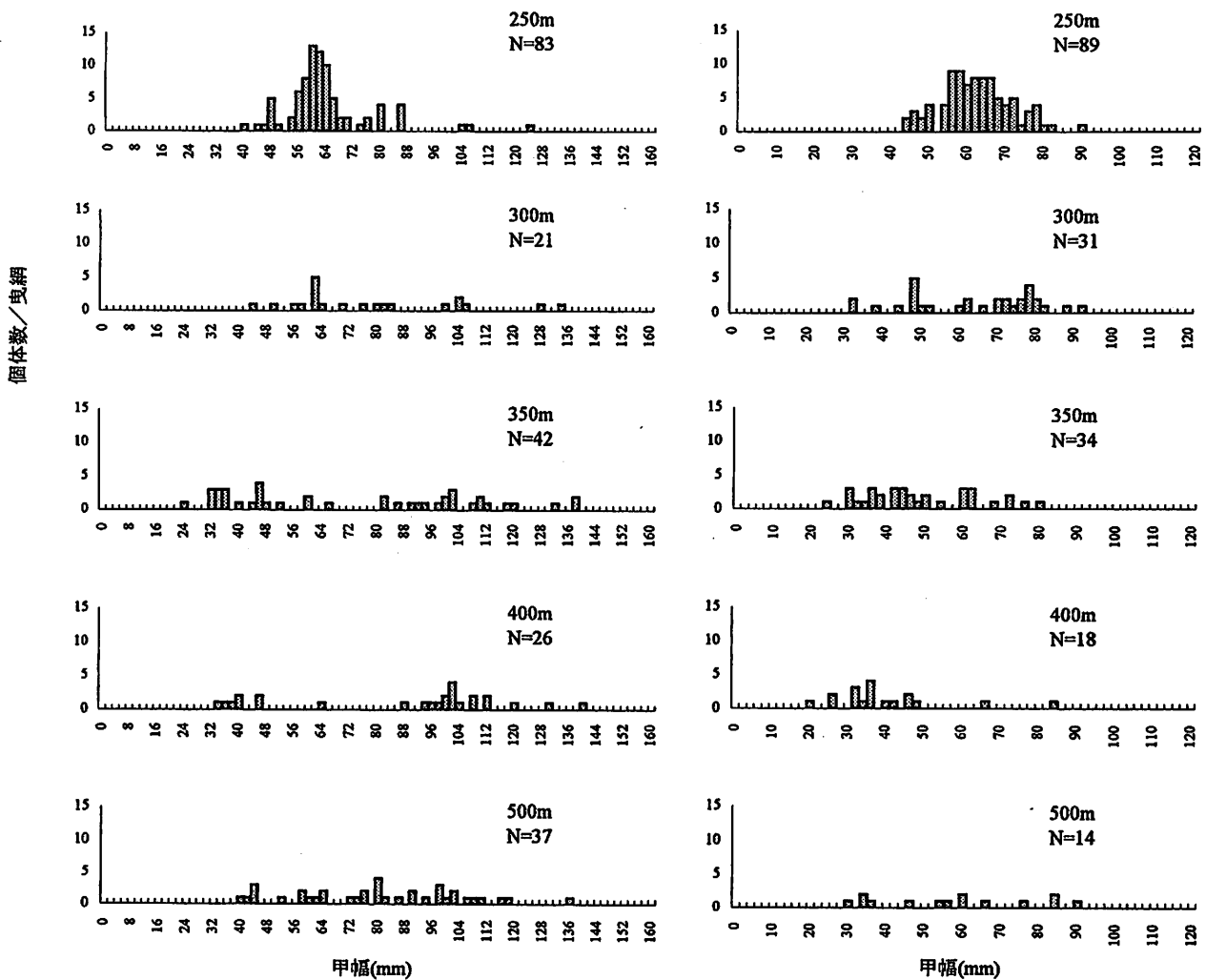


図4 水深別・雌雄別甲幅組成 (左:雄、右:雌)

資源動向

2001年1～2月における漁場全体の甲幅組成を図6に示した。

雄では甲幅60～64mmに、雌では甲幅60～62mmにモードが見られ、特に雄で顕著であった。甲幅組成から1994年生まれの7歳群と判断される。

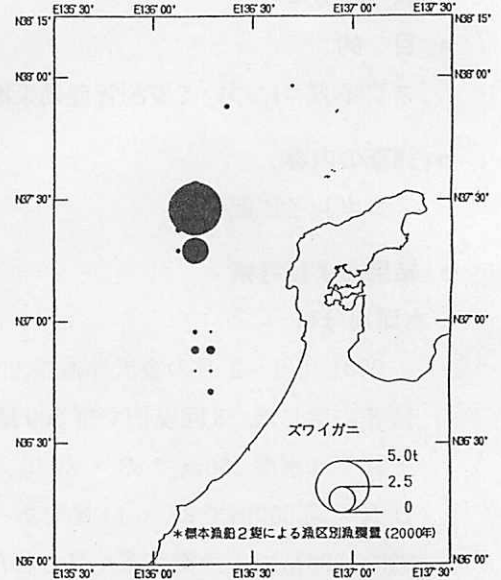


図5 標本船調査結果

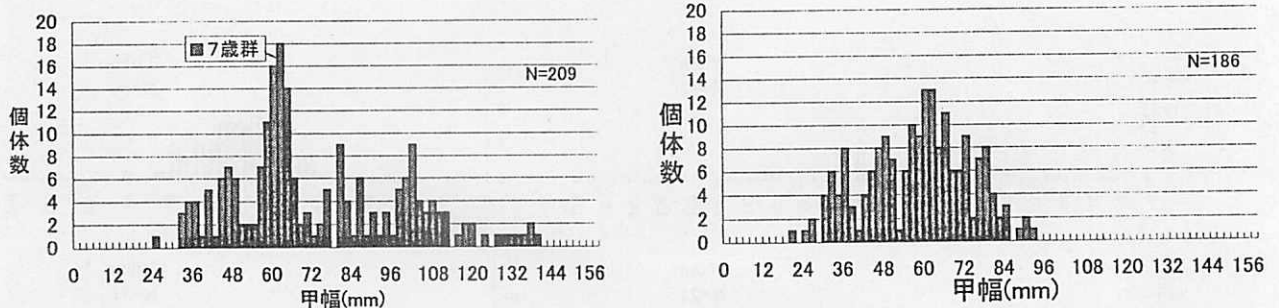


図6 漁場全体の雌雄別甲幅組成 (左:雄、右:雌)

③ ホッコクアカエビ

a 目的

資源管理計画策定のための資料を得るために、成長段階別、水深別の分布特性を調査し、保護すべき海域を特定する。また、既存資料の整理等によって海域特性を抽出する。

b 調査の内容

アカガレイに記載。

c 結果および考察

水深別分布

2001年1～2月の金沢沖水深200～500mにおける水深別頭胸甲長組成を図7に標本船調査結果を図8に示した。6回曳網で2,543尾が漁獲された。1曳網当たりの漁獲尾数はそれぞれ水深200mで62尾、同250mで62尾、同300mで51尾、同350mで34尾、同400mで15尾、同500mで200尾であった。水深200mでは雌が漁獲の全てを占め、50%以上が抱卵個体かふ出直後のてん絡糸の残った個体であった。水深500mでは頭胸甲長25mm以下の雄の割合が67%と高くなり、水深500mで漁獲された雌の97%が内卵の発達した個体であった。

資源動向

2000年7月と2001年1~2月における水深別頭胸甲長組成を加算し求めた漁場全体の頭胸甲長組成を図9に示した。2000年7月には頭胸甲長22mmに、2001年1~2月には頭胸甲長24mmにモードが見られ、頭胸甲長組成から1996年生まれの子と推測される。近年の漁獲はこの卓越年級群によって支えられており、1997年生まれ以降の漁獲比率が低いことから、今後漁獲量の減少が懸念される。

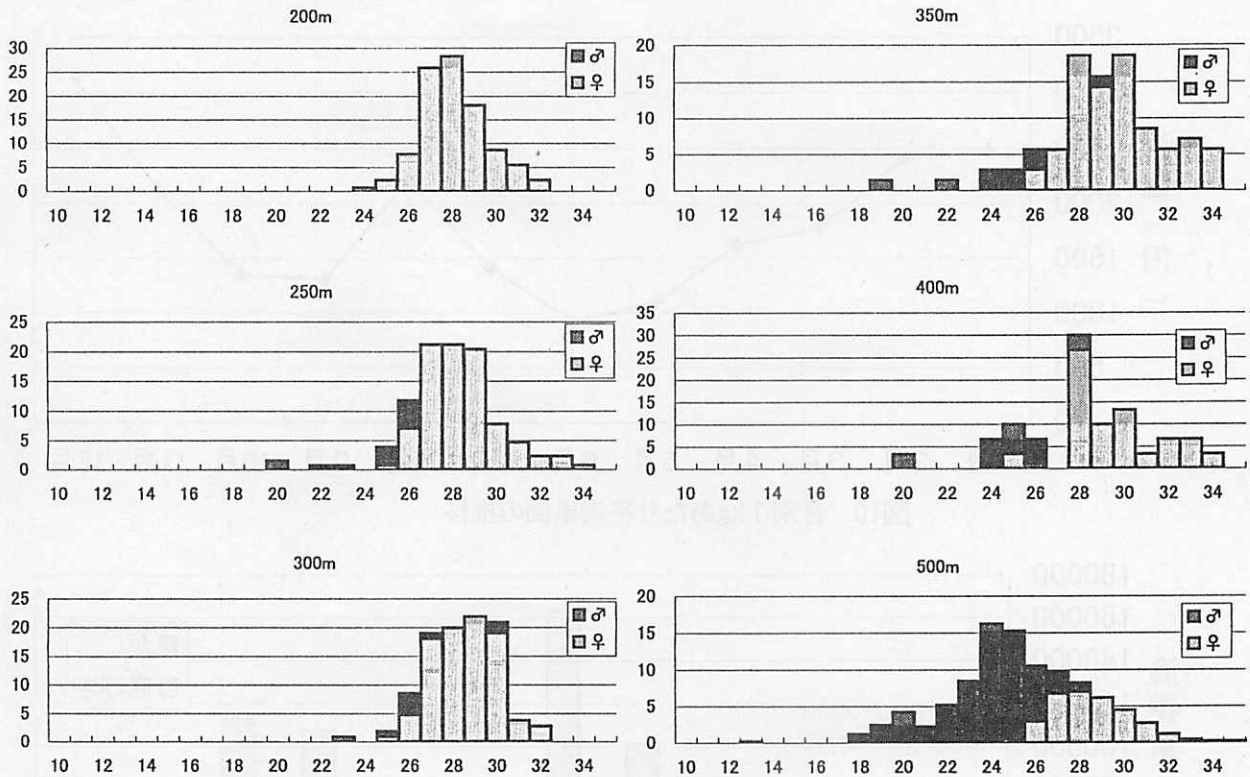


図7 水深別頭胸甲長組成 ※ 縦軸は頻度 (%) 横軸は頭胸甲長 (mm)

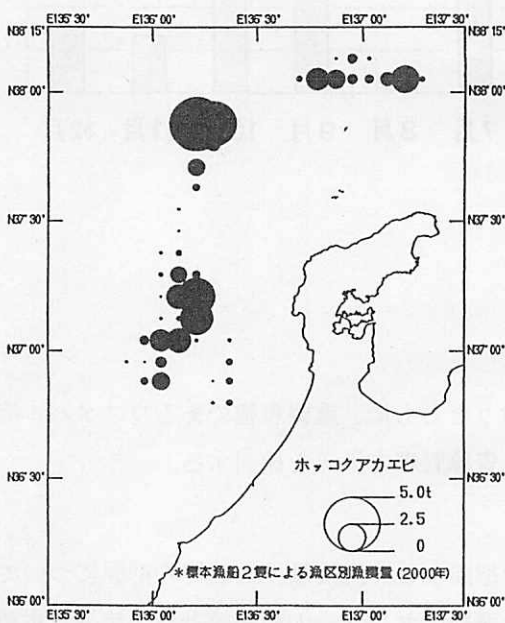


図8 標本船調査結果

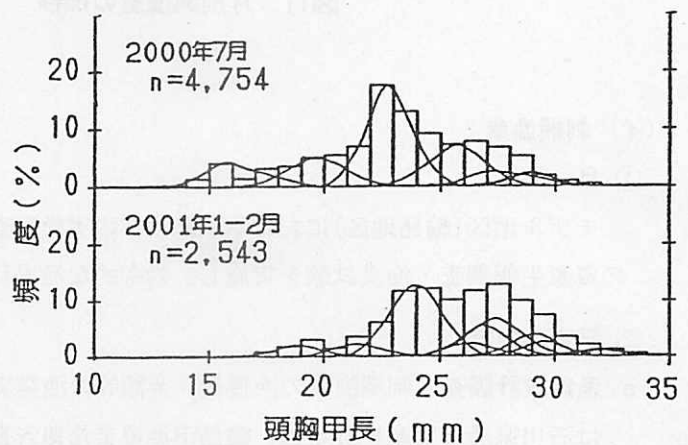


図9 漁場全体の頭胸甲長組成

価格調査

2000年における石川県内の月別・平均価格の推移、漁獲量の推移を図10および図11に示した。ホッコアカエビは8月と11～3月の価格が高い。8月は底曳網の沿岸域での禁漁期で、11～3月はズワイガニ漁期となっており、漁業者はズワイガニ漁を中心に行うため、いずれもホッコアカエビの水揚量が減少すること、さらに冬季は価格の高い子持ちエビが多く漁獲されるため価格が上昇するものと考えられる。

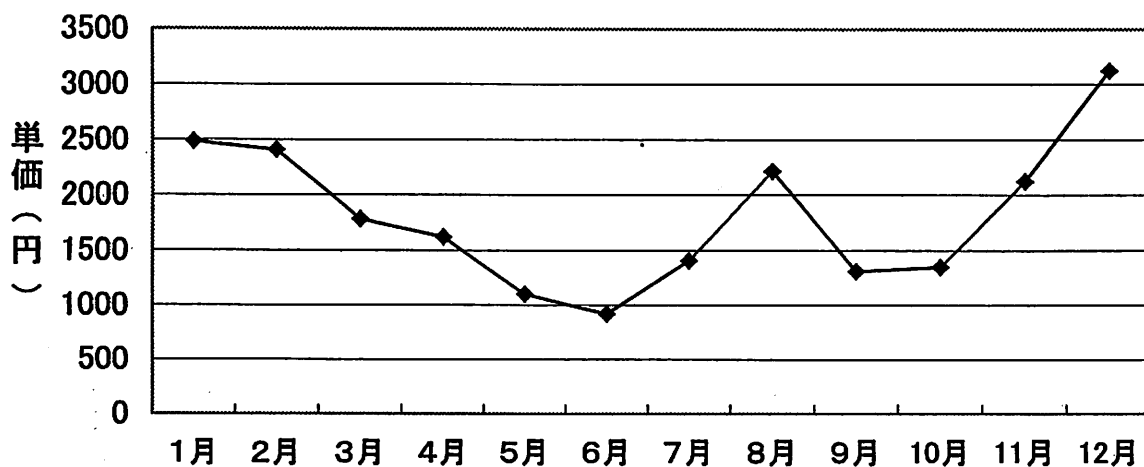


図10 月別1kgあたり平均単価の推移

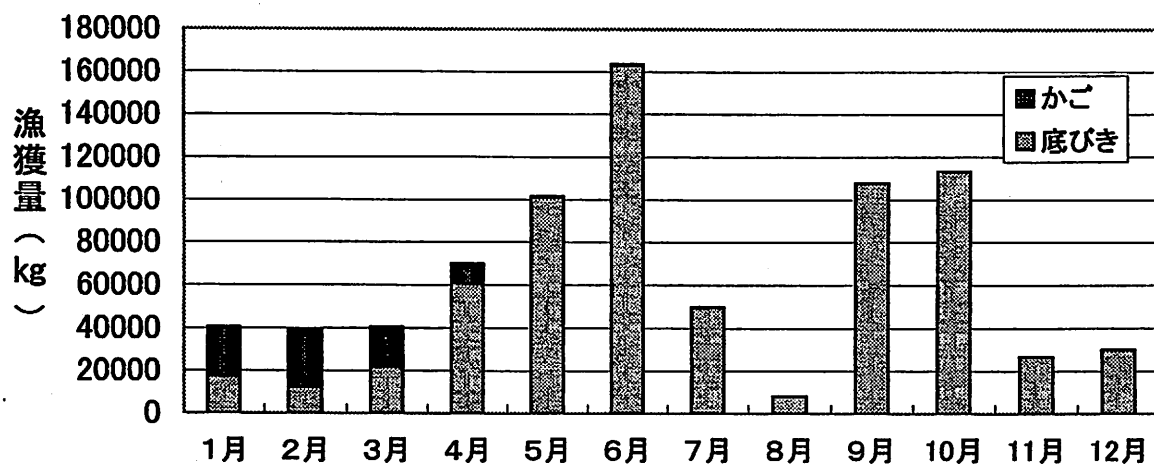


図11 月別漁獲量の推移

(イ) 刺網漁業

① 目的

モデル地区(輪島地区)における刺網漁業の実態調査を行うとともに、重要魚種であるウスメバル等の資源生態調査・漁具試験を実施し、効率的な漁場利用・資源管理方策等を検討する。

② 調査の内容

- a 漁獲統計調査：刺網漁業の漁獲量、金額等の漁業実態を把握する。漁獲量、金額等の把握については石川県農林水産統計年報、輪島市漁協業務報告書、水産総合センターの漁獲統計システム(主要港とのオンラインシステム)を使用した。

- b 標本船調査：標本船により漁場の利用実態、水深別の漁獲量等を調査する。
- c 市場調査：市場においてウスメバルを毎月1回測定し、漁獲サイズの変動等を調査する。
- d 標識放流調査：ウスメバル親魚の移動状況等を調査するために、釣獲したウスメバル成魚に標識を施し放流追跡を行う。

③ 結果と考察

a 漁獲統計調査

輪島市漁協所属の刺網及び釣りによるウスメバルの月別漁獲量・平均単価を図1に示した。輪島市漁協のウスメバルの漁獲量は1984年に最高の973トンであったが1987年には61トンにまで減少し、その後増減を繰り返して2000年には206トンとなった。輪島市漁協の刺網での漁獲量は、例年3～6月に多くピークは年によって異なり、7～10月には少なくなっている。2000年は5・6月にピークが見られ3月には比較的少なかった。これは2000年の春にはブリ(主として0歳魚)が多く漁獲されそれをねらったためと考えられる。なお、11～2月は刺網組合の自主規制により禁漁期間としている。釣りでの漁獲量は、刺網と傾向が違って例年4～8月の間にピークがみられ、10～2月には漁獲量は減少するが、2000年は8月が最も多くついで6月・3月の順に多かった。平均単価は、刺網・釣りとも5・6月が低く、刺網では2月に釣りでは9月に高くなった。傷を除いた全銘柄の平均単価は、刺網でkg当たり1,298円に、釣りでは1,631円と釣りが300円以上高くなった。

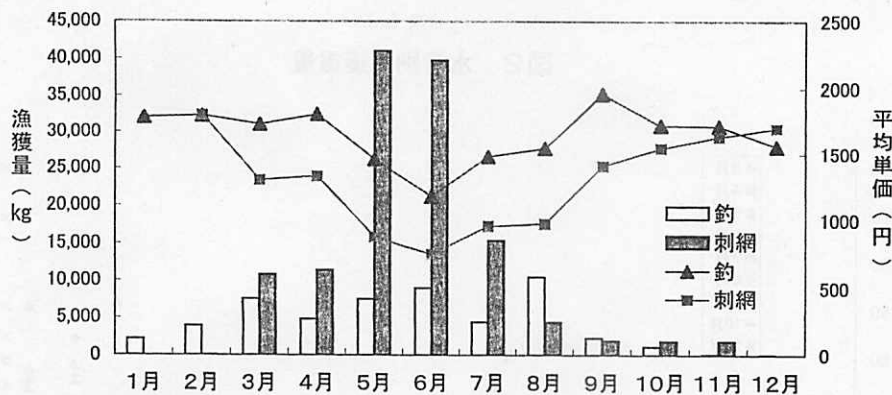


図1 ウスメバル月別漁獲量及び平均単価

b 標本船調査

輪島市漁協所属の刺網漁船3隻及び釣り船1隻の標本船日誌より操業状況等を調査した。輪島市漁協の刺網標本船により漁獲されたウスメバルの水深別漁獲重量を図2に、月別漁獲量を図3に、銘柄別の水深別漁獲量を図4に示した。また、釣り標本船により漁獲されたウスメバルの水深別漁獲重量を図5に、月別の水深別漁獲量を図6に、銘柄別の水深別漁獲量を図7に示した。

刺網では、ウスメバルは水深53～150mで漁獲されており、特に水深130～150mで多く漁獲されていた。月別に見ると、3～5月には水深60m以浅での漁獲が見られるが5月中旬以降は水深100m以深での漁獲が中心となっており、季節による深淺移動が伺えた。銘柄別では60m以浅では漁獲の中心は豆であり少々がこれに続いている。また、銘柄が大きくなるにつれ漁獲量は深い水深帯で増加する傾向が伺えた。3～6月の主漁期には豆から小の小型個体の割合が高く、6月以降大の割合が高くなる。11月の漁獲は、この間がウスメバルの自主禁漁期間であり他魚種ねらいで羅網したと思われる、量的に非常に少ないため、その時期の漁獲の銘柄別割合を反映していない可能性がある。漁

獲量は、豆・小・小小・中・大の順に多くなった。釣りでは、刺網よりやや狭い80~140mの範囲でほぼ均一に漁獲されていた。月別に見ると、1~3月にはほとんどが80m水深で、8月が120m以深で漁獲された他は月により漁獲水深に偏りが見られる事が多かった。また、銘柄別では大・中は浅場より深場に多く、小小・特小は深場より浅場に多かった。なお、漁獲量は小小・豆・小・中・豆・大・特小の順に多くなった。

c. 市場調査

輪島市漁協で漁獲されたウスメバルの月別尾叉長組成を図8に示した。なお、刺網では網目による選択性が働くため釣りによる漁獲魚のデーターを記載した。

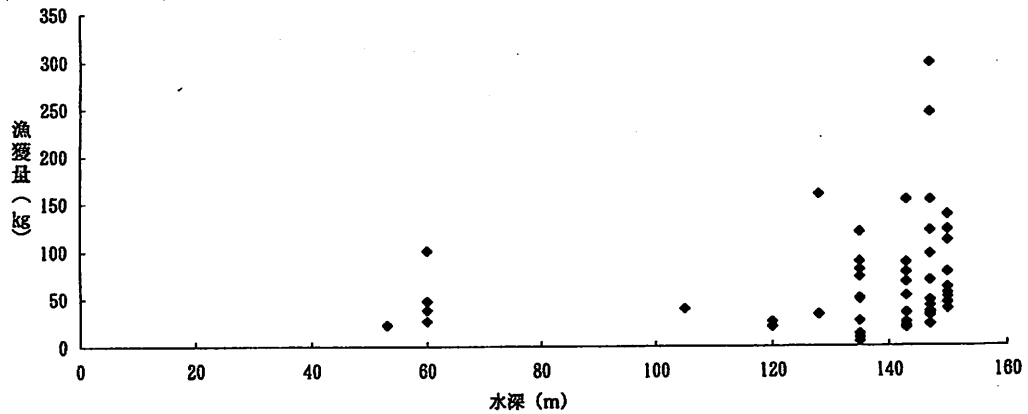


図2 水深別漁獲重量

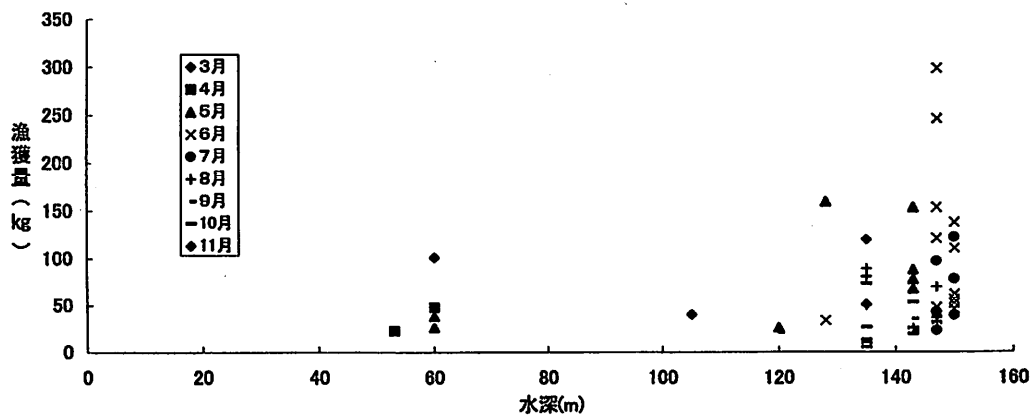


図3 月別水深別漁獲量

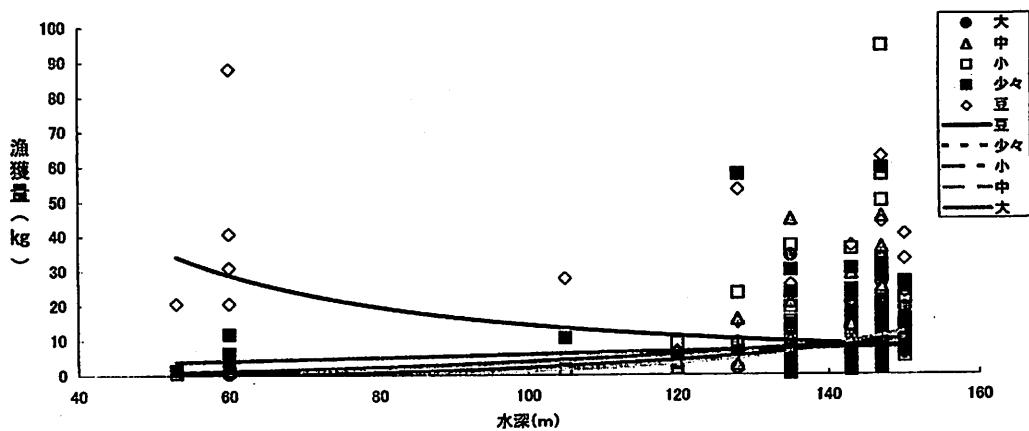


図4 銘柄別水深別漁獲量

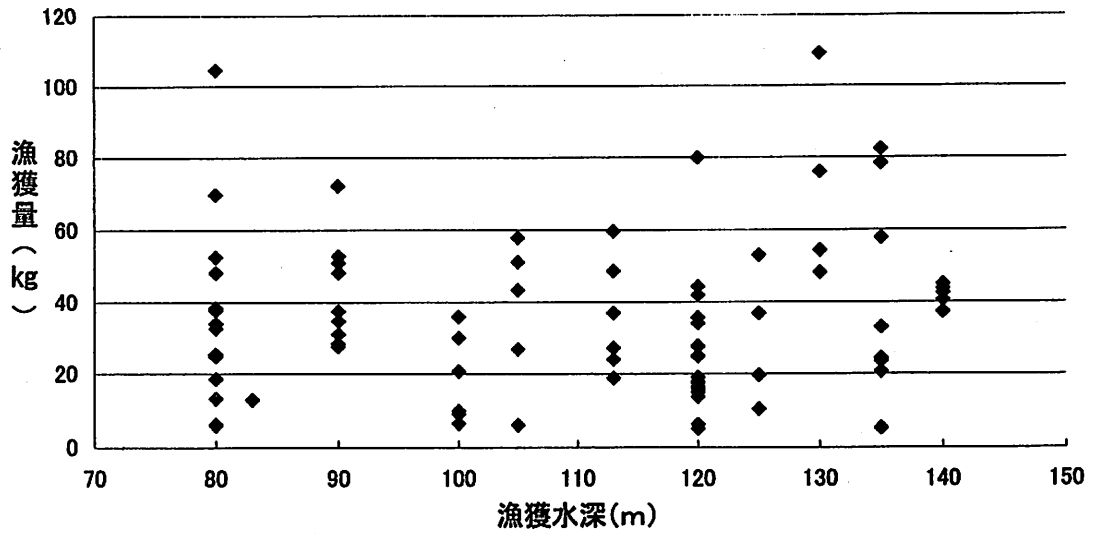


図5 釣りによる水深別漁獲量

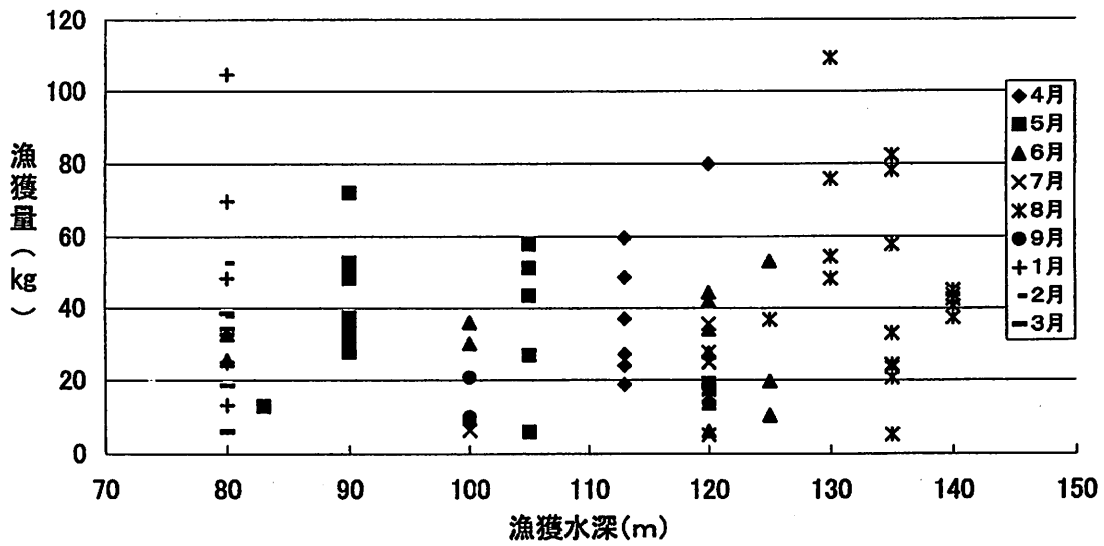


図6 月別水深別漁獲量

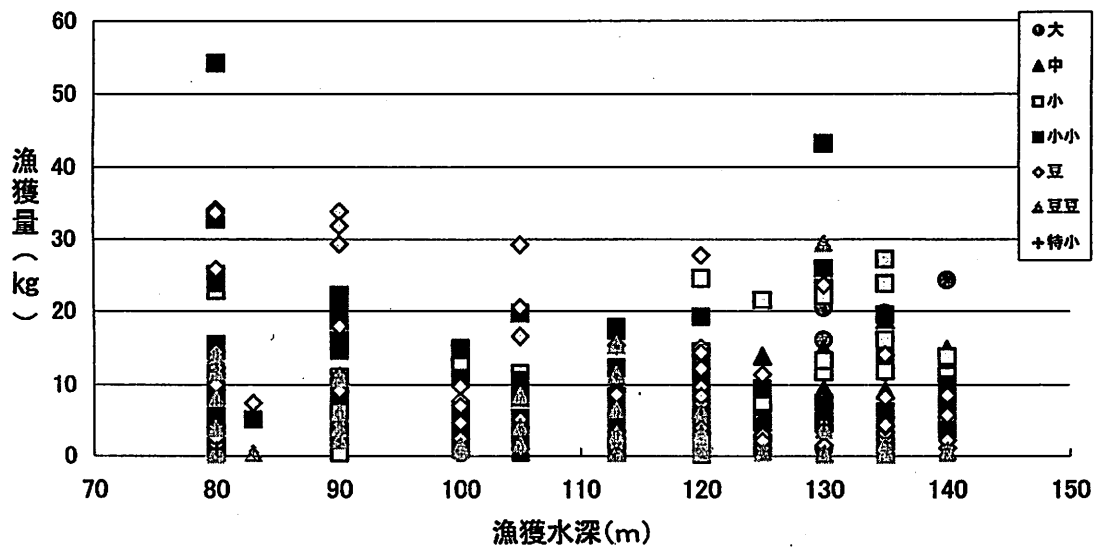


図7 水深別銘柄別漁獲量

尾叉長組成はいくつかのモードがみられ、5・7・8月には2峰型のモードがみられた。石川水試(1977)によると満2歳の尾叉長は159mm、満3歳は179mm、満4歳は206mm、満5歳は224mmとなっており、5月には満2歳と満5歳の群が中心に漁獲されたと考えられる。また、6・7・9月には満4歳の群も多く漁獲されていた。

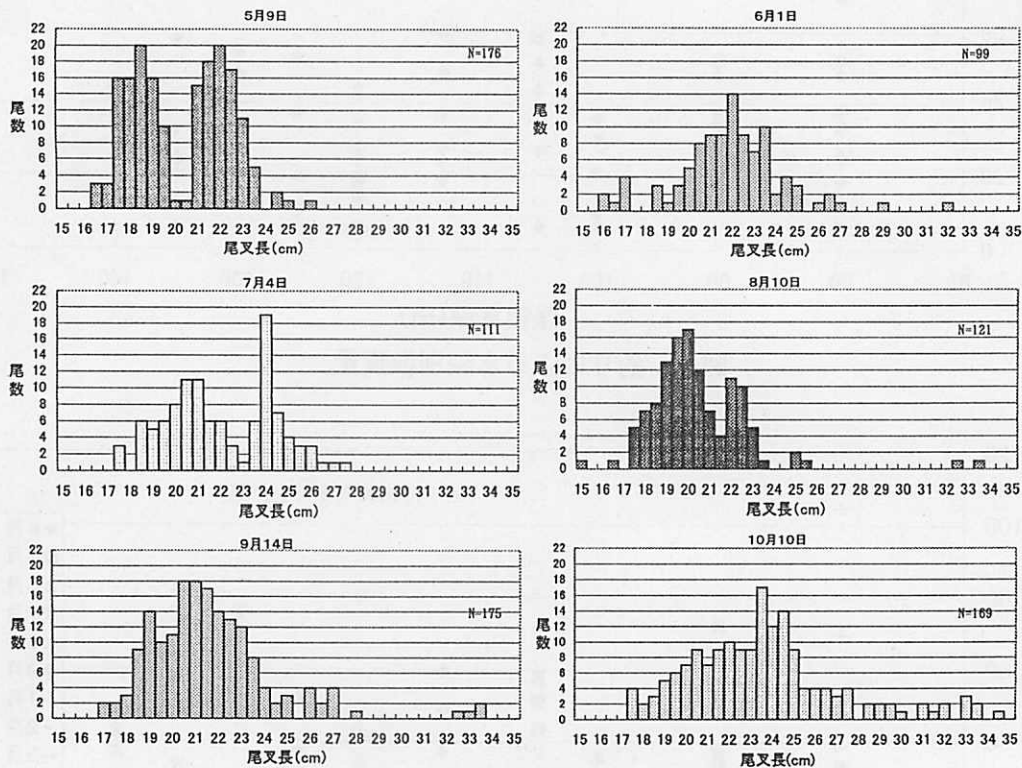


図8 月別尾叉長組成(釣り)

d 標識放流調査

輪島市漁協の釣り漁船に2000年7月11日に乗船し、輪島沖で釣獲された77尾のウスメバルのうち眼球の突出や消化管の反転が見られない36尾にアンカータグ(黄色イシ 0001~0038)を装着し魚体測定後「水圧付加方式」によって放流を試みたところ、このうち28尾が放流できた。放流個体は漁獲尾数の36%となった。

今回は「水圧付加方式」による標識放流技術の習得と有効性の確認のため、作業のしやすい夏季に行ったが、夏季はウスメバルがより深みで漁獲され、大型個体が多く漁獲尾数が少なくなるため標識放流尾数も少なくなった。しかし、盛期である春季においては、比較的沿岸近くで小型個体も含めて数多く漁獲されるため、春季に本手法を行えばかなりの数の標識放流ができると考えられる。

e 参考文献

石川水試(1977):指定調査研究総合助成事業, 流れ藻に付随するメバル類の種苗化試験報告書.

イ 指導・普及啓発

(ア) 福井県との協議

日時:平成13年1月26日(金)

場所:福井県水産会館

参加者：福井県(県底、漁連、水産課、水産試験場等8名)

石川県(県底、漁連、水産課、センター等6名)

内 容：福井県水産会館において、資源管理に関する協議を行った。主な内容は以下のとおり。①両県の資源管理に関する取り組みの概要を説明した。②福井県はホッコクアカエビに対する依存度が低く、同種の資源管理事業は実施していない。③昨年の本協議において、石川県が休漁する土曜日に福井県が水揚げすることが、石川県でのホッコクアカエビの値崩れの一因ではないかとの指摘をしたが、北海道からの大量入荷の影響もあり、値崩れと土曜出漁の因果関係を示す具体的データを提示できなかった。④今回の協議において、値崩れに関する具体的データを提示できなかったが、ホッコクアカエビの価格変動は非常に大きく、南浦、金沢、橋立、三国の現場では、水揚げが集中しないよう互いの出漁を調整しているようであり、両県共通の資源をうまく管理するために何かする必要がある。⑤来年度も本協議を継続することで一致した。

(イ) その他

平成12年3月10日に羽咋市一ノ宮公民館において、遊漁者等を対象に講習会を開催し、資源管理に対する普及啓蒙を図った。

ウ 情報収集・広報

(ア) ホッコクアカエビ県外産地調査

日 時：平成11年10月18日(水)～20日(金)

場 所：北海道 水産林務部資源管理課 羽幌町漁業協同組合

参加者：底びき漁業者代表、県漁連、県水産課、県水産総合センター等5名

内 容：道庁水産林務部資源管理課と羽幌町漁業協同組合において、ホッコクアカエビの漁獲、出荷等の状況を調査した。主な内容は以下のとおり。①北海道庁において、ホッコクアカエビの資源管理の取り組み状況について情報収集を行った。②北海道では籠漁業を主体にエビ資源を利用する方針であり、籠の網目規制、保護区設定、減船等の資源管理措置を行っている。③北海道産のホッコクアカエビは主に東京や金沢に出荷しており、道内消費は少ない。④石川県には北海道産のホッコクアカエビが大量に入荷しており、供給過剰の状態であるため、道内の消費拡大に努めてほしい。⑤羽幌町漁協でホッコクアカエビの荷揚げと箱詰めの状況を視察し、出荷状況について情報収集した。⑥水揚げのうち3～4割を金沢に出荷している。⑦20年前から金沢に出荷しているが、4～5年前から価格が低下している。⑧羽幌町で水揚げしたものは主に金沢、関東、関西に出荷しているが、消費地に届くまで時間がかかり鮮度が低下することもある。⑨現在の供給過剰な状況を考えた場合、ホッコクアカエビを道外に出荷するよりは道内の消費拡大に努めた方が、石川県にとっても羽幌町にとっても将来性があるように思われる。

(イ) その他

全国資源管理型漁業推進会議、資源管理型漁業指導員講習会等に参加して情報収集を行った。資源管理型漁業に関する啓蒙資料等を作成し、啓蒙普及に努めた。

エ 活動の推進

(ア) 漁業者検討会の開催

① 漁業者検討会(ホッコクアカエビ)

a 石川県ホッコクアカエビ漁業者検討会委員

区分	所 属	役 職	氏 名
漁業者代表	金 沢 市 漁 業 協 同 組 合	県底船長会長	森 陸 生
"	加 賀 市 漁 業 協 同 組 合	県 底	大 井 清 秀
"	金 沢 市 漁 業 協 同 組 合	"	村 田 紘 一
"	金 沢 港 漁 業 協 同 組 合	"	鳥 井 淳 二
"	南 浦 漁 業 協 同 組 合	"	内 潟 隆
"	金 沢 港 漁 業 協 同 組 合	小 底 代 表	中 島 隆
"	金 沢 港 漁 業 協 同 組 合	"	島 崎 勉
"	内 灘 町 漁 業 協 同 組 合	"	氷 見 山 晴 雄
"	高 浜 漁 業 協 同 組 合	"	山 本 義 勝
"	柴 垣 漁 業 協 同 組 合	"	菊 義 一
"	石 川 と ぎ 漁 業 協 同 組 合	"	坂 元 大 造
"	輪 島 市 漁 業 協 同 組 合	底 曳 網 組 合 長	浜 谷 和 善
"	輪 島 市 漁 業 協 同 組 合	小 底	逢 坂 伸 春
"	寺 家 漁 業 協 同 組 合	"	坂 口 捷 一
"	蛸 島 漁 業 協 同 組 合	底 曳 網 船 団 長	山 崎 辰 夫
"	珠 洲 中 央 漁 業 協 同 組 合	小 底 代 表	舟 木 克 彦
"	宝 立 町 漁 業 協 同 組 合	"	大 門 庄 二
"	小 木 漁 業 協 同 組 合	"	坂 口 章 二
漁 協	金 沢 市 漁 業 協 同 組 合	組 合 長	川 島 良 一
"	県 機 船 底 曳 網 漁 業 協 同 組 合	参 事	喜 多 外 茂 行
系 統 団 体	県 漁 業 協 同 組 合 連 合 会	考 査 役	中 道 五 郎
市 場 関 係	南 浦 漁 業 協 同 組 合	業 務 部 長	長 安 靖 史
"	輪 島 市 漁 業 協 同 組 合	販 売 課 長	逢 坂 清 成
"	蛸 島 漁 業 協 同 組 合	参 事	竹 沢 鉄 夫
"	石 川 中 央 魚 市 (株)	取 締 役	水 上 巖
"	ウ ロ コ 水 産 (株)	取 締 役	松 平 正 幸
"	県 漁 業 協 同 組 合 連 合 会	金 沢 港 販 売 部 長	塩 安 久 夫

b 検討会の内容

開催日	開催場所	主な検討事項
平成12年 8月4日	金 沢 市 県水産会館	(1)平成12年度事業計画について ・事業実施計画について協議した。 (2)その他
平成13年 3月9日	金 沢 市 県水産会館	(1)平成12年度の事業実施状況について ・平成12年度に出席した諸会議及び諸事業の実施概要を説明。 ・ホッコクアカエビの県外主要産地である北海道と販路開拓市場としての名古屋市中央卸売市場の調査結果について説明。 (2)平成13年度における資源管理関連事業について ・資源動向について協議し、ホッコクアカエビ資源管理計画案作成に向けた来年度の取り組みを説明した。

② 実践推進漁業者協議会(ズワイガニ・アカガレイ)

a 石川県ズワイガニ・アカガレイ実践推進漁業者協議会委員

石川県ホッコクアカエビ漁業者検討会委員と同じ。

b 協議会の内容

開催日	開催場所	主な検討事項
平成 11 年 8 月 4 日	金 沢 市 県水産会館	(1)平成 11 年度アカガレイ等調査結果の概要について ・平成 11 年度のアカガレイ調査結果を基に資源管理を協議した。 (2)アカガレイ、ズワイガニ資源管理計画の実践について ・資源管理計画の実践について協議した。 ・アカガレイに資源状況について協議した。
平成 12 年 3 月 9 日	金 沢 市 県水産会館	(1)アカガレイ、ズワイガニ資源管理計画の実践について ・資源動向について協議し、今後の管理手法の参考とした。 ・ズワイガニ等の魚価安に歯止めをかける方策、出荷タグ等の装着に関して検討した。 (2)その他 ・資源回復計画の概要について協議した。

(イ) ホッコクアカエビ販路開拓調査

日 時：平成 13 年 3 月 1 日(木)

場 所：名古屋市中央卸売市場

参加者：底びき漁業者代表、漁協、県漁連、水産課、水産総合センター等 9 名

内 容：名古屋市中央卸売市場において、ホッコクアカエビの入荷状況等を調査した。主な内容は以下のとおり。①北海道産ホッコクアカエビの取扱量が最も多く、石川県産は北海道の 1 割程度の取扱である。②価格形成に関しては、消費地である金沢が主導している状況にある。③冷凍物の取扱が増加した結果、価格が以前に比べ 2 割ほど低下した。④北海道は、品質向上に努力しており、以前に比べて随分良くなった。⑤石川県産のものは鮮度は良いが、箱詰めが悪いことでイメージを低下させている。⑥取扱量はここ 10 年くらいは 170 トン前後で推移しており、消費もほぼ一定であると推測される。

(3) 当該地域の資源管理型漁業の進捗状況

広域回遊資源では、昭和 63 年度から沖合底びき網、小型底びき網でズワイガニ、マダイ、ごち網、定置網、刺網、釣り等でマダイを対象に資源管理型漁業に取り組み、平成 4 年度に資源管理計画を策定した。平成 5 年度から沖合底びき網、小型底びき網でアカガレイを対象に取り組み、平成 9 年度に管理計画を策定した。地域重要資源では、七尾湾において、小型底びき網(第 3 種)でアカガイ、小型底びき網(第 2 種)、刺網等でヒラメを対象に取り組み、平成 4 年度に管理計画を策定した。漁協単独の資源管理では、刺網でサザエ、素潜りでアワビ、小型底びき網(第 3 種)でコタマガイを対象とした自主規制を行っている。

(4) 次年度事業における課題と方向

ア 試験調査

底びき網調査では、調査船による試験操業、市場調査、漁獲統計調査、標本船調査等を行い、資源管理計画策定の基礎資料を得る。刺網調査では、引き続き資源生態調査を行い、資源管理策の基礎資料と

する。

イ 指導・普及啓発調査

ホッコクアカエビについて、福井県の底びき網漁業者と協議の場を設けるよう努める。遊漁団体、海面利用講習会等を通じて、県内の遊漁者に資源管理のPRを行う。

ウ 情報収集・広報

ホッコクアカエビの販路開拓調査を行うとともに、販売促進資材等を作成する。資源管理全国会議、資源管理ブロック会議等に参加して情報収集を行う。

エ 活動推進

漁業者検討会、実践推進漁業者協議会等の開催し、ホッコクアカエビの資源管理計画案を作成する。カレイ類の資源管理を促進するため底びき網の網目拡大の試験操業を行う。また、付加価値向上のための鮮度保持試験を行う。